

# 苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 9 回 定例委員会
日 時	令和2年8月27日 自 9時30分 至 12時20分
場 所	教育・福祉センター 5階大講堂
出席委員	教 育 長 五十嵐 充 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 植 木 忠 夫 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹
欠 席 委 員	
会議録署名委員	齋 藤 智 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 田 中 真 奈
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 生 涯 学 習 課 長 林 崎 竹 亜 生 涯 学 習 課 主 幹 藤 原 誠 生 涯 学 習 課 主 査 齊 藤 正 幸 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 学 校 教 育 課 学 務 係 長 佐 藤 純 哉 学 校 教 育 課 教 職 員 係 長 近 藤 大 介 総 務 企 画 課 主 事 田 中 真 奈 学 校 教 育 課 主 事 千 葉 大 輔 学 校 教 育 課 主 事 高 橋 美 貴
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（五十嵐教育長）・・・9時30分
2 会議録署名委員の指名（齋藤智子委員）
3 会議録の承認
（五十嵐教育長） 第8回定例教育委員会（令和2年7月22日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（五十嵐教育長） いつもと違う短い夏休みが終わり、苫小牧市内の小中学校では、8月18日から2学期が始まっています。少しの間ではありましたが、私も新校舎が完成した東小学校の校門で、元気に登校する子供たちの姿を見守らせていただきました。また、新型コロナウイルスの影響で行き先などが変更となり、行程の組み直しをしていた修学旅行につきましては、20日から光洋中学校、沼ノ端中学校を皮切りに順次実施されています。このような年に行われる旅行ですので、子供たちにとって一生の思い出に残るものにして欲しいと願っております。
それでは、7月22日開催の第8回定例教育委員会以降の事業などについて、報告をいたします。例年7月末から8月上旬にかけては、とまこまい港まつりをはじめ、アートフェスティバルなど、夏恒例のイベントや各種行事が立て込み、大変忙しい時

期であります。今年のご承知のとおり、新型コロナウイルスの影響で軒並み中止となっております。

こうした中、7月29日に社会教育委員会議、8月5日に図書館協議会が開かれました。両会議とも今年委員改選の年に当たっており、それぞれ10名の委員の皆さんに2年間の任期に係る委嘱状を交付し、社会教育行政の充実と市立図書館の運営について、それぞれの分野、立場からお力添えと忌憚のないご意見をいただくようお願いをしたところでございます。

8月15日は、平和祈念式典が緑ヶ丘公園の忠魂碑前を会場に開催される予定であり、私も出席の予定でありましたが、悪天候のため、中止となりました。日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式の中継をテレビで見ながら、先の大戦で亡くなられた方々に哀悼の意を表し、黙祷をさせていただいたところであります。

8月19日には、校長会議を開催しました。私からは、新型コロナウイルス第2波の感染拡大に関して、全国的には都市部を中心にいまだに多くの感染例が報告され、道内的にも、安心するには程遠い現状を踏まえ、学校における新たな日常の定着に向けて、今後も油断することなく各学校において、マスク着用、手洗い、消毒、換気、密を避けるなど、感染拡大防止策の徹底をお願いしております。

8月23日、苫小牧市文化団体協議会創立50周年記念式典が市民会館大ホールで開かれ、岩倉市長、金澤市議会議長とともに来賓として出席をしてきました。式典に引き続き、「少年と犬」で直木賞を受賞された馳星周さんを講師にお招きして、記念講演会が行われました。馳さんが時の人となることを予期していたかのような何ともタイムリーな企画で、文化団体協議会事務局の先見の明には感服いたしました。地元の間人にとっては、非常に懐かしい満龍のみそバターラーメン、ダイエーの本屋での立ち読みなど、苫小牧東高校時代のエピソードに始まり、本、犬、馬という3つの大好きなものとの出会い、作家になってから現在までの生活について、ユーモラスに語った20分の講演は、あっという間に終わってしまいました。

最後に、今年、昨年の小学校の教科用図書採択に引き続き、令和3年度から使用

する中学校教科用図書採択の年であります。8月17日に教科書採択調査研究委員会の報告を受け、さらに勉強会を3回開催するなど、長時間にわたり委員の皆さんと熱い意見交換を重ねてきたわけでございますけれども、本日の会議において、教科用図書採択についてお諮りをいたしますので、よろしくご審議のほどお願いをいたします。報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

## 5 議 案

### 第1号 令和3年度使用教科用図書の採択について

(学校教育課長) はじめに、令和3年度から使用する中学校教科用図書の採択についてでございます。

本件につきましては、5月の定例教育委員会で採択要領と調査研究委員会要項及び採択に係る文書の公表の方法等について決定していただいた後、7月15日に調査研究委員の委嘱をし、調査研究を開始いたしました。8月17日には調査研究委員長より教育委員の皆様へ調査研究結果の報告をしております。調査研究項目といたしましては、これまで同様に「取扱内容」、「内容の構成・配列・分量等」、「使用上の配慮等」、「その他」という4つの観点を基に報告書も取りまとめられております。

教育委員の皆様には、使用する子供たちにとって学びやすいか、教員にとって教えやすいか、その他様々な角度からご意見をいただき、本日は中学校用教科用図書14教科についてご審議の上、最終的に各教科それぞれ1社を採択していただくこととなりますので、ご審議賜りますようお願いを申し上げます。

(五十嵐教育長) それでは、ただいま事務局から説明がありましたとおり、これま

で調査研究委員会の報告会、それから勉強会において意見交換を行ってきましたが、教科ごとに各委員からご意見をいただき決定をしたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。ご意見をいただく順番については、佐藤委員、植木委員、齋藤委員、岡田委員、そして私という順番で進めてまいります。

それでは、「国語」の教科から審議に入りたいと思います。佐藤委員から「国語」についてのご意見をお願いしたいと思います。

(佐藤委員) では、私からお話しさせていただきたいと思います。様々な教科書がございまして、委員会報告に基づきまして勉強してまいりました。基本といたしましては、今お話にありましたように、学びやすいか、または教えやすいか、加えて苫小牧の生徒に対して教えるということを考えたときにどうか、という視点からも意見を交換して勉強してまいりました。

国語については、学びやすいか、教えやすいかということ、それから最近出てまいりましたQRコードの利用という点につきましても、それぞれ比較をいたしました。まず、学校で勉強するということ、また、振り返って自分で勉強することがしやすいかどうかということも考えまして、様々な観点から使われている教材などを比較し、そして中学生にふさわしいかどうかということもいろいろ勉強いたしまして、私といたしましては、学習の幅を広げるという各学年の領域というのを学習の窓に、一覧としてまとめました。まずは興味を引き出して、その中で細かく説明していくという、プロセスが取れるということで、非常に特徴的なものではないかと思いました。また、教えやすいかということに対しましても、小学校からの連携、継続ということもありまして、基本的な学習過程が示されているかということについても気をつけて拝見いたしました。その結果、先ほど申し上げましたが、QRコードの使いやすさ、それから、その内容も含めまして、国語に関しましては、光村図書出版がよろしいのではないかと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。続きまして、植木委員から意見をお聞かせください。

<p>(植木委員) 教科書の採択に当たっては、我々教育委員は、大変、苦勞いたしました。勉強会を重ねて、それから調査研究委員会の報告も受けながら、様々な観点から教科書採択に関わり、いろいろな議論をしてまいりました。私は、これから5年先、10年先の生徒がどう生きるかというのは、今までは、生き方のひな形のようなものがあつた時代から、AI社会、ネット社会になり、大人もそうですが、子供たちにとっては、大変不透明な社会が訪れるのは明々白々です。では、この新学習指導要領の中で、子供たちに身につけさせたいものは何かということまで深めていくと、恐らく表現する力、判断する力、思考する力、それに併せて創造する力というものを身につけさせなければ、なかなか子供たちの明るい未来をつくることはできないだろうと考えました。もう一つは、今までなかった道徳の教科化であり、プログラミング学習、今まで私どもが経験しなかった学習が小学校にも中学校にも下りてきました。そのような観点から、一番大切なものは何かというと、私自身は、やはり主体的な学び、いわゆるアクティブ・ラーニングと言われているところをどう構築していくのかというところが大切ということで、そのところを一つの目標に置きながら、採択というところで判断をしてまいりました。</p>
<p>国語科ですが、やはり子供たちにとっての学びやすさ、それから佐藤委員もお話しになっていましたが、学びの継続性というところを鑑みたところが1点。もう一つは、身につけた力を再確認、教育言葉でフィードバックという言葉を使いますが、学んだことを再度確認しながら、自分自身で学びを深めていく、そういうところが充実しているのは、全ての教科書もそういうところを考えておりますが、私は、光村図書出版が最適ではないかなと考えました。</p>
<p>(五十嵐教育長) ありがとうございます。それでは、齋藤委員お願いします。</p>
<p>(齋藤委員) 今回の中学校の教科書採択に当たって、佐藤委員、植木委員がおっしゃったとおり、私たちは、結構時間をかけて勉強してまいりました。その中で、私もどのように教科書を選んだら良いのか、いろいろな方のご意見を聞きながら勉強してきたわけですが、時代の変化が目まぐるしく変化していく中で、その中で変わってい</p>

くものと、変わらないもの、変わっても人間の根本として、これは大切にしていきたいものというのを、お互い相反することかもしれませんが、そこを大切にしながら、その上で、苫小牧の子供にどのような教科書で学習をするのが一番望ましいことなのかを考えて、教科書の採択に関わらせていただきました。また、私たちが子供のときと違い、学校での学びの形が変わってきて、今まで、学校の先生からただただ授業を受ける、一方的な聞く学びから、アクティブ・ラーニングと、主体的に勉強し子供たちが意欲的に自分で考えて物事に取り組んでいくという時代が変わってきていますので、そのことを踏まえた上で、どのような教科書を採択したら良いかという視点で教科書選びをさせていただきました。

その中で、私も、先ほどお二人の委員さんと一緒に、光村図書を推させていただきますと思います。まず、継続的に勉強ができるという評価がすごく高いのですが、これまでも中学校でこの光村図書の教科書を使っているの評価、また小学校も光村図書の教科書を使っており、継続的に学びを深めることができるかなと思ひまして、私も光村図書出版を推させていただきますと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。それでは、岡田委員、お願いします。

(岡田委員) 社会が大きく変化する中で、6年、3年という義務教育課程がどのような役割を、今後果たすことになるのか。そういう意味では、子供たちが意欲的に学び、興味を持つ、それから自ら進んでそれをさらに深めていくという、その基礎的な過程、将来にわたって人格を形成していく学校だけの勉強が学びではなくて、それ以降、自分の生涯にわたって学んでいくという、知ること、知に対する興味ということ、をどれだけ持ってもらえるか、知ることがどれだけ楽しいことなのかという、子供たちに、それが伝わるようなことがこれから大事ではないかと思ひます。その義務教育課程というのは、その基礎的なところを、学んでいく子供たちに受け取ってもらうということが大事ではないかというところから、今回、私は考えてまいりました。

そういう中で、私としては、子供たちの話す、書く、聞く、読む、という国語についての大事なところを、それから、生徒同士のそういった意見の交流、話し合う活動

というところも考えまして、ほかの皆さんと同じように光村図書出版の国語を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。それでは、最後に私ですが、私も光村図書出版を選ばせていただきました。皆さんと重複することは言いませんが、基本的に新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びということが求められています。今回の教科書採択でも、そういった視点が求められている中で、各社、そこを十分配慮した教科書の構成となっているわけではありますけれども、これまでの中学校での実際の使用の実態、その評価も加えまして、学びの継続性といったような観点から、私も光村図書出版が良いのかなと考えております。

委員の皆さん、意見が光村図書出版ということで一致したわけですが、そのほか何か意見は、ございませんでしょうか。

(一同「なし」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「国語」は光村図書出版に決定をいたしました。次に、「書写」の審議に入ります。同様に各委員から意見をいただいて決定したいと思います。書写以降については、端的にどこの会社ということと、端的な理由をおっしゃっていただき進めていきたいと思っております。それでは、佐藤委員からお願いします。

(佐藤委員) では、書写につきまして、国語と同じでなくても良いという委員会の報告を受けまして、継続という条件を外して勉強会をいたしました。学びやすいということ、それから、主体的に学びやすいかどうかというところに重点を置きまして、今回は、筆遣いにつきまして、QRコードで見られる動画を判断材料にさせていただきました。様々なQRコードで、それぞれ、筆遣いをわかりやすく書いてありますが、上手に書けるような気になるようだったのが光村図書でございまして、ほかの教科書にも同じように構成がされておりますが、非常にわかりやすく、また角度の研究もさ



れておりましたので、私は、書写に関しましては、光村図書出版を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) 続きまして、植木委員お願いします。

(植木委員) 書写というのは、日本語の毛筆、硬筆を中心にあるわけですが、私は、これは日本の文化であろうと考えています。私も現場にいた人間ですので、毛筆を指導するとき、なかなか一人一人に目を配ることができないという実態も考えながら、子供たちにはどうやったら日本の文字のすばらしさを伝えられるかと考えたときに、コロナ禍によって、一人一人にタブレットが使えるということが可能になりました。本市でも、それを実現することになっております。そこで、この教科書の中で何が良いかというと、佐藤委員がお話しいただいたように、光村図書出版は、毛筆練習の手本ページにQRコードが全て掲載されております、筆遣いを、子供たちが疑問に思ったときに、動画で確認できる良さ、そういうQRコードから学習を推し進めることができるというところが特徴的ですので、私も光村図書出版が現時点では最適ではないかと考えました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私も光村図書出版を推させていただきます。何度もお話しに出ていますように、各社、QRコードがついている教科書会社がたくさん増えてきて、それぞれ特徴的ですが、この書写の学習において光村図書出版のQRコードは特に優れていると感じました。各ページにQRコードがついており、筆遣いを確認することができますので、今までは先生のお手本を見て書いたり、教科書の見本を見ながら書いたりしたのが、QRコードの内容が本当に丁寧に書き方を示されていますので、特に分かりやすいと思ひまして、光村図書出版を私も使っていたきたいと思ひました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。岡田委員お願いします。

(岡田委員) 今、委員の皆さんからお話がありましたように、同じ理由で光村図書出版の書写を、私も選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。私ですが、書写については、私も光村図

書出版が良いのではないかと考えました。理由については、委員の皆さんがおっしゃられたことと同じであります。

それでは、私を含めまして5人が「書写」については光村図書出版となり、皆さん一致ですので、「書写」については光村図書出版ということで、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「書写」は光村図書出版に決定をいたします。

次に、「地理」の審議に入ります。それでは、佐藤委員からお願いをいたします。

(佐藤委員) 地理の教科書の構成の特徴といたしまして、最初に学習課題というのが様々な教科書に上げられておりました、年間を通した学習の見通しができるように工夫されておりました。最後に、チェックや確認、表現、トライ、様々な言い方があるのですが、様々に取り組みが興味を引き出し、なおかつ勉強できるように工夫されておりました。では小学校から中学校に上がるということを考えまして、小学校の内容の振り返りということに注意して比較をいたしました。その結果、私は、教育出版の地理がよろしいと判断し選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員、お願いいたします。

(植木委員) どの教科書が最適かということで大変迷う教科であります。どの教科書も学習課題をつかませる、見通しを持たせる、それから主体的に深い学びにつなげようという構想の下に教科書は作られております。大変判断のしづらい、難しい教科書の一つだと思っておりました。ただ、私がこの地理の教科書を見たときに、子供たちにとっての見やすさがどうかという観点で見せてもらうと、教育出版社の教科書が良いかなと思いました。また、GIGAスクール構想がありますので、QRコード等が大変充実していて、これは、なかなか判断のしようがないのですが、一番私が気に入ったところは、学習内容や学習の進め方というものが、それを見ながら進むことができ、自分の考えにつなげるところが教育出版社の良さではないかなと思い、私

も教育出版を選定いたしました。
(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員、お願いします。
(齋藤委員) 私も教育出版を選びたいと思います。理由は他の教科と同じく、植木委員と重複しているのですが、全体的なバランス、子供の分かりやすさ、先生の教えやすさ、それから小学校から中学校に上がるときに、子供たちは一気に勉強が難しくなるのではないかという不安感もあると思うのですが、小学校の学びを振り返る工夫もされていますので、円滑に接続ができればなという視点でも、教育出版が良いのではないかと思います。
(五十嵐教育長) 岡田委員、お願いします。
(岡田委員) 委員の皆様がお話ししたとおりでございますけれども、北海道の特色ということもありまして、アイヌの人々についての記載もあり、多様な文化への理解というところについても充実していると思われまますので、私も教育出版を選びました。
(五十嵐教育長) 私は、委員の皆さん教育出版ということでしたので、私、1人違うことを言っても、なかなか決定には至らないのですが、帝国書院の地理が私は少し気に入って見ていました。ただ、委員の皆さんが教育出版ということですので、あえて、どうしてもとこだわるわけではないのですが、私としては帝国書院が良いかなという思いはありました。
しかし、4対1ということですので、「地理」については教育出版に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、「地理」については、教育出版に決定をいたします。引き続き、「歴史」の審議に入ります。佐藤委員からお願いをいたします。
(佐藤委員) これは社会科の歴史的分野の勉強ということになりまして、構成も同じように、学習課題によって見通しを立てプラス学習を振り返る。また、さらに歴史

的なことについての興味を持ち、自分でどのように勉強するのか振り返って、今と比べるという時間にもなればと思ひまして、その観点から、いろいろ比較させていただきました。また、委員会報告にもございましたように、教えやすいかどうか、また学びやすいかどうかの報告を参考にいたしまして、さらに連携して学ぶということも重点を置くことだと思ひまして、私は、歴史に関しましては教育出版を選ばさせていただきました。

(五十嵐教育長) それでは、植木委員、お願いいたします。

(植木委員) 現代に生きる人間にとって、歴史に学ぶということが極めて大事で、歴史を知らずして現代を語れないですし、未来を見通せない。そういう意味で、この教科についても何が良いのかということで、各委員さんともお話をさせていただきました。私も、歴史を学ぶ上で、学習の振り返りということが大事で、既習の人物がどういう生き方をしているのかということに視点を当てているのが教育出版ではないのかなと私なりの解釈をして、歴史についても教育出版が良いだろうと思ひました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私も教育出版を選ばさせていただきます。もちろん、学びやすさ、教えやすさというポイントも踏まえて選ばさせていただきましたが、地理も教育出版を推させていただきます、地理と歴史、教科書は分かれています、やはり連動するような内容がありますので、ここで起きた歴史的な出来事が、では場所はどこで起きていたのかということに着目したときに、同じ教科書のほうがもしかするとメリットがあるのではないかなと思ひました。また、個人的にもこれは特徴的で良いなと思つたのが、近世の歴史も多く、一つの時代を勉強するだけではなく、いつの時代と比較して学ぼうというページの提示がありました。歴史は、どうしても暗記科目のようなイメージを持ってしまっていますが、ただ、その時代の文化や出来事を暗記するだけではなく、何の時代と比較してこの時代はどうなのかと学ぶということが、主体的な学びを大切にしていこうという、これからの時代に合っているのではないかと思ひ、教育出版を選ば

せていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、岡田委員、お願いします。

(岡田委員) 他の委員の皆さんと同じように教育出版を選びました。振り返りによって、歴史をさらに知りたいというような工夫をされていますので教育出版を選びました。

(五十嵐教育長) 私としても、歴史については教育出版を選ばせていただきました。学びやすいか、教えやすいかという観点で、皆さんも言われたような理由と同じではありませんが、学びの継続性といった観点も含めまして、教育出版ということにさせていただきます。

それでは、皆さん、教育出版ということですので、「歴史」につきましては、教育出版に決定してよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「歴史」については、教育出版に決定をいたします。

次に、「公民」の審議に入ります。まずは、佐藤委員からお願いします。

(佐藤委員) 社会科の公民的分野の教科書についてですが、これも学習課題がございまして、振り返りの時間があるということは、社会科の特徴、構成としてありました。それぞれの教科書に特徴がありましたが、日常生活の中で発展して理解していくもので、学びやすいか、教えやすいかということに加えて、学びを深める、または学びの成果を実感できる時間になるのかどうかということ、これはあったほうがよろしいのではないかと考えまして、それぞれ本当に素晴らしいところがございまして、インターネットを使い、それからQRコード、リンクも非常に工夫されておりましたが、私といたしましては、東京書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。それでは、植木委員お願いします。

(植木委員) 公民の教科については、言ってみれば、国民主権だとか、市民権だと

か、あるいは平和主義というのを子供たちに考えてもらいたい、そして、それを広げていってもらいたいというのが私、個人的な願いです。調査研究委員会の中で、一番問題になったのは、社会科は同一の教科書が良いのか、それとも、歴史、地理、公民それぞれ違って良いのかということも、大変大きな議論になりました。様々な観点から、私どもも学習をいたしまして、私は、この公民については先生にとっての教えやすさというところに力点を置いて選択をさせていただきました。理由は、1単位の時間の学習の進め方、見方、考え方などが大変平易に書かれており、それが子供たちにとっての学びやすさにつながり、深い学びにつなげることが可能であろうと考えまして、私も佐藤委員、同様に東京書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 公民という教科は、子供たちにとって、もしかすると一番、自分たちの生活により身近な教科ですので、一番関心を持ち、主体的な学習が進みやすい教科なのではないかなと思いました。他教科では、少し主体的に物事を考えたいと思っても、なかなかとっかかりにくいところがあるかもしれませんが、公民という教科は、身近な自分の生活に関わることなので、そういうことが苦手な子でも主体的に授業に参加しやすい教科でありますので、より多くの子が自分なりの意見を考え、述べて、友達と話し合う機会を持ちやすい教科書を選びたいなと思い、今回お勉強させていただきました。その中で、私も東京書籍を選ばせていただきたいと思います。どの教科書もアクティブ・ラーニング、主体的にお勉強をしやすく構成されているのですが、東京書籍は、特に学習課題をしっかりと示されており、見通しを持ちやすいという特徴がありまして、これが子供たちにとっても、先生たちにとっても、教えやすい、学びやすいのではないかなと思いました。以上の理由で、東京書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。岡田委員、お願いします。

(岡田委員) 私も東京書籍を選びました。生徒たちが自分の身の回りのことを、具体的に解決すべきものをどうするか、多数決についてどう考えるかなどを具体的にわ

かりやすいところがありましたので、学びやすいかなと思ひまして、東京書籍を選びました。

(五十嵐教育長) 私も東京書籍を選びました。皆さんのいろいろな理由、ご意見と同じものがありますが、付け加えるとすれば、北海道の中の自治体での事例、例えば根室市の議会改革の取上げ方や、旭川市のアイヌ語の地名表示板の写真の掲載といった、北海道になじみの深いところを取り上げていたということも付け加えさせていただきます。

それでは、皆さん、東京書籍ということですので、「公民」につきましては、東京書籍に決定してよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「公民」については、東京書籍に決定をいたします。

次に、「地図」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。

(佐藤委員) 地図につきましては、地図帳を使って学ぶ、また地図の使い方などを通して、日本のこと世界のことを知る時間になるのだろうと思ひまして、日本の地図で日本の情報を知るだけではなくて、世界の中で日本はどうか、また、世界の結びつきを知る時間、その使い方が大切だと思ひまして、航空写真ですとか、動画の充実というところの観点で、私は判断させていただきました。地図帳に関しましては、帝国書院を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。それでは、植木委員お願いします。

(植木委員) 地図帳につきましては、子供たちにとって興味をそそるもの、学びやすさというところに着目をして見たところ、見やすさだとか、資料の充実だとかというところに焦点を当てると、帝国書院が良いのではないかと思ひました。資料活用能力、いわゆるリテラシーを養うということが他教科につながる学習とリンクしていますので、帝国書院がふさわしいかなと思ひます。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。
(齋藤委員) 私は、見やすさを重視して、帝国書院を推したいと思います。今のお子さんたちは、例えばこの町はどこにあるのかなど、調べたいと思ったときに、地図帳よりもネットでぱっと調べがちなお子さんが多いと思います。その中で、もちろん、ネットも便利で大いに活用していくべきかと思うのですが、地図帳などで根気強く探すという作業を、今のこの年代でしっかりと積むことが将来、大人になり、一つ一つ根気よく探すということも彼らの将来につながると思いました。そのときに見やすいということが、やはり重要で、根気よく調べる中で、ストレスなく見やすく調べられるという点で考えたときに、帝国書院が良いのではないかなと思い選びました。
(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、岡田委員お願いします。
(岡田委員) 私も帝国書院を選びました。理由は、ほかの委員の皆さんと同じでございます。
(五十嵐教育長) 私も帝国書院を選びました。皆さんがおっしゃっていることと同じですけども、まず、やはり地図はこの大きさが良いだろうということと、巻末の資料のデータも、帝国書院のほうが一番最新のものを使っているといったようなこともあり、帝国書院を選ばせていただきました。
それでは、皆さん、帝国書院ということですので、「地図」につきましては、帝国書院に決定してよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、「地図」については、帝国書院に決定をいたします。次に、「数学」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。
(佐藤委員) 非常に難しい科目でございました。数学という科目の性格上、小学校からの積み重ねの力、それから、理解度が顕著に出る科目でございましたので、小学校とのつながりを考えるのか、それとも中学に入って新たな分野とするのかということ



ころも比較させていただきました。結果、小学校の理解度が非常によく関係するのではないかと思いました。また、教科書で大切にしている観点である、連携がどうかということ、中学になってからの進級に伴っての理解、継続の仕方、学びやすさ、自分で学べるかどうか、教室で学ぶということのほかに、いわゆる復習の部分となると思うのですが、問題の解答についての説明や解説が確認しやすいか、また疑問が出たときに、それに対する答えが見つけやすいのかどうかということが非常に重要だろうと思いました。自己学習ということがしやすいということを考えまして、私は、数学に関しては啓林館を選ばさせていただきました。

(五十嵐教育長) それでは、植木委員お願いします。

(植木委員) 子供たちにとって能力の差が大変顕著になる教科だろうと思います。委員の中で、どの教科書を選べば良いのか大変議論になったところです。それを、まず冒頭お話し申し上げて、では、一体何が決め手になるのかと自分なりに考えてみると、小学校のつまずきを改善する、これも極めて重要なことですが、それを今回の教科書では、東京書籍がそれを教科書の中に組み入れたというのは特徴的だなと私は考えています。ただ、それだけが教科書を採択するときの決め手になるかというと、私はそうではないと考えています。それで、調査研究委員会の委員長さんの報告の中でも示されていたのですが、具体的な学習が充実しているのかどうか、基本的な問題解決型の学習指導をすることができるのか、それから進んだ子、遅れた子に対応するような手だてが教科書の中に組み込まれているのかというあたりを考えたときに、今まで使っていた啓林館が私はふさわしいなと考えましたので、私も啓林館を推したいと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 植木委員からお話があったように、前置きとなるのですが、この数学という教科書の採択をどうするかというのは、本当に私たちも難航しまして、いろいろな意見が出ました。その中で、何がベストなのかを考えたときに、どれも、甲乙つけ難く、それぞれ一長一短がある教科で、視点をどこに持っていくかによって、教科

書を選ぶポイントが変わってくるのかなと思います。結論から言いますと、私は東京書籍を選ばせていただきたいと思います。先ほどもお話がありましたが、小学校の算数の時点で、苦手意識のあるお子さんがやはり多いと思います。中学校に入ってから、小学校のときまで算数は楽しかったけれども、数学になりより高度になっていくと、そこで苦しくなってくるお子さんもたくさん出てくる教科なのではないかなと思います。その中で、東京書籍の教科書は、もともと勉強が苦手だというお子さんだけに焦点を当てているのではなくて、幅広い子供たちの学習をサポートできるつくりになっているのではないかなと思います。もともと算数が好きで、中学校に上がり数学が難しくなってきたと思ったお子様も、手厚くサポートできる教科書のスタイルになっていると思いました。また、教えやすさの面でも、先生方の教えやすいつくりになっており、もちろん、アクティブ・ラーニングにも対応した、協議をして、課題を解決、振り返って、次につなげるだとか、また、その学んだ知識を活用してまとめとして仕上げるだとか、そういうポイントがよくできているのではないかなと思います。このような理由で、私は東京書籍を推したいと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も数学については東京書籍を選びました。なかなか数学というのは、無味乾燥と言いますか、数字しか出てこないのも、数学は嫌いというお子さんがいらっしゃるかもしれないのですけれども、やはり数字の中に意味があり、数学を学ぶことはどれだけ楽しいことかというのが、私は感じたことがあるものですから、東京書籍を選びました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。私は、東京書籍を選びました。佐藤委員、植木委員のおっしゃることももつともで、確かに、そういう観点でというところはあります。私は、小学校からの接続もスムーズに行えるようになっていくという部分に、最終的には着目をして、東京書籍を選ばせていただきました。数学については、これまでの委員会の研究報告会、それから勉強会の中でも、委員の皆さんからいろいろな意見が出て、本当に本日、どういう結果が出るのかというところが、私自身

もわからない状況で来たわけです。今、私を含めて3人が東京書籍、啓林館はお二人ということですがけれども、佐藤委員、植木委員からご意見、ご指摘等ございましたら言っていただいても結構ですが、どうでしょうか。

(植木委員) いえ、特段ありません。

(佐藤委員) 甲乙つけ難い教科書ですので、ございません。

(五十嵐教育長) では、3対2ということで僅差ではありますが、「数学」については、東京書籍ということに決定をしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「数学」については、東京書籍に決定をいたします。

次に、「理科」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。

(佐藤委員) 理科の教科書も、構成上、課題がございまして、その課題について、学習し、探求していこうという構成になっておりました。それに伴いまして、興味を持ち自分で新しいことをさらに学ぼうとするきっかけになる教科書づくりをされているなと思いました。日常生活の中で、その興味の世界が広がる機会にもなるなと思いながら、様々な教科書を学ばせていただきました。ただ、理科にとどまらず、他学科にもつながるような性格がある教科だと思いましたので、学びを広げる、さらに深められる指導につながるということになれば、さらに教える、または学ぶという観点からも充実するのではないかと思います。私は、東京書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、植木委員お願いします。

(植木委員) 私も、この理科を採択するに当たって何を考えたのかというと、課題を見つけて、自分で仮説を立てて検証をし、確かめながら、また次の課題に進んでいくという、いわゆる理科的な学び、このことが充実しているのはどの教科書なのかということが1点。それと、理科の場合は、実験というところが伴いますので、子供たちにとって安全な作業が進められるかということにも注視しながら考えました。そ

うすると、東京書籍の、学ばせ方、問題発見、レッツスタートというようなところにしっかりと位置づけられていて、子供たちにとっても、教師にとっても勉強を進めやすく学びやすいというところに着目をいたしまして、東京書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) それでは、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私も、東京書籍を選ばせていただきました。佐藤委員、植木委員のお考えと私も同じなのですが、付け加えさせていただくならば、QRコードのことです。理科という教科の特徴として、やはりQRコードが有効に活用できる教科となると思います。その中で、理科だけではなく、ほかの教科とのつながり確かめることもできる特徴が東京書籍にありますので、そのことも有効なのではないかと思い、東京書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) では、岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も東京書籍を選びました。子供たちに科学的なものや自然に対して、興味を持たせるという感じがありましたので、東京書籍が良いのではないかと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。私も東京書籍を選んでおります。

それでは、皆さん、東京書籍ということですので、「理科」につきましては、東京書籍に決定してよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「理科」については、東京書籍に決定をいたします。

次に、「音楽(一般)」の審議に入ります。佐藤委員からお願いします。

(佐藤委員) 音楽の内容ですが、日本の音楽にとどまらず世界、さらには民族の音楽などの紹介が多様な資料や写真、それから説明など豊富な内容でございました。さらに、ウェブサイトへ接続することによって、音声や動画を実際に視聴できるという、

楽しくいろいろなことを知る時間になるのだろうなという思いで、構成自体は非常に似ておりましたが、私は、音楽に関しましては教育出版を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、植木委員お願いします。

(植木委員) 音楽は、子供たちに芸術の良さを触れさせるという観点から考え、また、中学校で学ぶりコーダー、アルトリコーダー、それから和楽器等々を現場の先生方の声をお聞きもさせていただきました。では、どの教科書が良いのかということですが、現場の声も、かなり今までの教科書は充実していますというような声もお聞きしましたので、私も教育出版社で良いのではないかなと考えています。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私も教育出版社を選ばせていただきました。どちらの教科書も甲乙つけ難く、本当に私個人的には迷ったのですが、教科書の内容はもちろんですが、先ほどこから何度も出てきますように、最終的にはQRコードだけで教科書を選んでいるつもりはないのですが、教育出版社のQRコードを拝見させていただいたときに、合唱曲のところ飛ぶと、教育出版はパートごとに動画が出てきて、よりこの合唱を楽しみやすく、子供たちも学びやすい工夫がされているなというのが特徴的だなと思いました。具体的なバランスを見ましても、音楽鑑賞、アルトリコーダー、合唱、それぞれのバランスが取れた内容だと思いますので、今までも教育出版を使い、現場の評価も高いようですので、教育出版を推したいなと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も教育出版を音楽に関しては選びました。理由は、ほかの委員の皆さんと同じようなことです。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。私も、音楽については教育出版を選びました。付け加えることは特にございません。

それでは、皆さん、教育出版ということですので、「音楽（一般）」につきまして、教育出版に決定してよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「音楽(一般)」は、教育出版に決定をいたします。

次に「音楽(器楽)」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。

(佐藤委員) これも、先ほどと同じように、日本の音楽、世界の音楽、そして民族の音楽について、どのような楽器を使われているかと同時に、実際の日常生活の中で、自分たちが、その楽器を奏でるところのお勉強になっております。多様な音楽の中で、様々なものを知るというのに加えて、自分たちでも演奏をする楽しみということが学べるような時間になっております。器楽に関しましては、教育出版を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員、お願いします。

(植木委員) 先ほど、先走って器楽編についても言ってしまいましたが、結局、いろいろな楽器に触れる、いろいろな音楽に触れるというあたりは、子供たちの水準というところもあります。教える側の教えやすさというところが大変重要で、それを通して、子供たちの能力が伸びていくというのが大切なのかなと思っていますので、私は、この器楽についても教育出版が良いのではないかと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。齋藤委員、お願いします。

(齋藤委員) 私も、先ほどの音楽の一般でアルトリコーダーのことを触れてしまったのですが、私も教育出版を選ばせていただきます。中学校でアルトリコーダーだけではないのですが、楽器を学ぶに当たって、子供たちの取り組みやすさ、先生方の教えやすさという観点からも、また、一般の音楽の教科書も教育出版を推しましたので、そこが連動するという観点から見ても教育出版が良いかなと思ひまして、教育出版を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。岡田委員、お願いします。

(岡田委員) 私も教育出版を選びました。子供たちが学んでいくということ、また、QRコードについても充実していると思われまますので、教育出版を選びました。

<p>(五十嵐教育長) ありがとうございます。私も器楽については教育出版を選びました。理由は皆さんがおっしゃっていることと同じであります。</p>
<p>それでは、皆さん、教育出版ということですので、「音楽（器楽）」につきまして、教育出版に決定してよろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) それでは、「音楽（器楽）」は、教育出版に決定をいたします。次に、「美術」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。</p>
<p>(佐藤委員) 美術の教科書も3つの観点で構成されておりました、知識、表現力、学びという、だんだん自分の持っているものから知らないことを広げるという構成になっておりました。様々な有名な絵画紹介や美術を実際にこんなものだと見る以外に、美術館を訪れたらどうかや、あるいは絵画を楽しむ方法というところまで掘り下げた説明があり、ただ絵を見て、作者と合わせて試験用に暗記するというのではなく、自分がこれから成長していく過程で出会うであろう美術についての楽しみ方やそこにある物語まで掘り下げているということで、視野を広げる学習方法につながるだろうと思ひまして、私は、美術は日本文教出版を選ばせていただきました。</p>
<p>(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員、お願いします。</p>
<p>(植木委員) 私は、教育委員の中では一番最年長ですが、今になって思うと、人間として、どう充実した生き方ができるかというときに、音楽であるとか、美術であるとか、文学であるとか、自分の嗜好、好みの奥の深さを持っていると人生の生き方が素晴らしいものになるのだろうなと今になって思うのですが、この教科については、かつては、絵を描くことが中心であったところが、今は造り出すというところに力点が置かれているように思うのです。そうすると、先生方の力量もあるのですが、その教材をどう教え、どのような制作をしていくか。そして、いわゆる先人のつくった素晴らしい美術作品をどう鑑賞できるのかというあたりが大変大切ではないかなと思ひ</p>

ました。私はそういう意味でいうと、やはり、どの出版社もQRコードが充実されていて、大変すばらしいものを見ることができるのですが、私はデジタル教材として見たときに、その充実が一番なのは開隆堂出版かなと思ひまして、私は開隆堂出版を推したいと思ひます。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 結論から申し上げますと、私も開隆堂出版を選ばせていただきました。

美術という教科を考えたときに、鑑賞という視点と、自分でクリエイティブにつくり出すという視点があると思うのですが、今、植木委員がおっしゃったように、もしかしたら中学校を最後に、この美術に触れる機会がこれからなくなるお子さんもいるかもしれないという中で、なるべく多くの美術の作品を見せてあげたいと思ひました。また、いろいろクリエイティブなものをつくるという機会を与えてあげたいと考えています。とはいっても、美術作品を見なさいといつても身近にそういうものがない環境のお子様もいるわけで、そういうものにとつきやすいということを考えたときに、まずQRコードが充実しているというのと、開隆堂出版で言えば、例えば札幌駅のパブリックアートを載せていまして、身近にある題材を紹介しているので、子供たちも抵抗なく入りやすいのではないかと思ひ、選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) では、岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も開隆堂出版を選びました。題材ごとに学習のポイントを示されており、学びながらイメージをしやすいというところを考えまして、開隆堂出版を選びました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。私も開隆堂出版を選びました。全ての題材にQRコードの掲載という部分に併せて、北海道の掲載が多いという部分にも着目し、開隆堂出版を選ばせていただきました。

4人が開隆堂出版ということですが、佐藤委員いかがですか。

(佐藤委員) もちろん、甲乙つけ難い内容でございますので異議ございません。

(五十嵐教育長) それでは、「美術」については、開隆堂出版に決定してよろしい



でしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「美術」については、開隆堂出版に決定をいたします。  
次に、「保健体育」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。

(佐藤委員) 保健体育の教科書についてですが、内容といたしましては、中学生の興味、それから現実の社会問題を取り上げているということで、様々なことが日常生活と結びついているということを知るといふ教科内容になっておりまして、これから学びをすることが、中学生が直面する出来事であるかどうかということをお考えまして、保健体育に関しましては、私は大修館書店を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員お願いします。

(植木委員) 保健体育ですけども、これもどの出版社が良いのか大変悩んだところであります。選んだポイントというのは、地域素材があるのかというあたりと写真等による具体的な、保健的な学びにつながるものがどの程度あるのか、生徒の興味、関心の高い話題などがどう掲載されているか、その辺りを採択する観点で選ばせていただきまして、私は大修館書店が良いと思いました。

(五十嵐教育長) では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私も大修館書店を選ばせていただきました。中学生の興味がある話題、例えば感染症のことなどがきちんと話題としてあり、また授業を進める中でも、意見を出し合って課題をつかみ、原因を知って、また話し合うという、学習が授業の中でスムーズに行いやすいと思いました。また、情報が新しいものが載っているというのも一つのポイントで、例えばエピペンの使い方、今アレルギー問題がいろいろ出ていますが、エピペンの使い方が載っているのがこの教科書だけということでしたので、そういう視点も、もっと子供たちに新しいことも学んでほしいなと思ひまして、大修館書店を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。岡田委員お願いします。
(岡田委員) 私も大修館書店を選びました。日常生活で関心のある話題についても取り上げられており、それを理由といたしまして、大修館書店を選びました。
(五十嵐教育長) 保健体育については、私も大修館書店を選びました。理由については、皆さんから出ていることですけれども、感染症予防のページに6ページも割いていることや、あるいはSNSの事例を取り上げており関心の高い話題の掲載といったようなところにも着目した結果ということでもあります。
それでは、皆さん、大修館書店ということですので、「保健体育」につきましては、大修館書店に決定してよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、「保健体育」については、大修館書店に決定をします。
次に、「技術」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。
(佐藤委員) 教科書の構成の仕方、目標や活動のほかに、教科書内容が基礎的な知識や基本的な技能が確認できるかどうかというのが大事だろうと思ひまして、その学習を確認できやすいような工夫がされているのが大切だと思ひまして、技術に関しましては、東京書籍を選ばせていただきました。
(五十嵐教育長) それでは、植木委員お願いします。
(植木委員) この教科は、かつて私もそうであったように、自分の自宅にのこぎりやかんなやその他、そういうものがあって自由にいたずらことができました。いたずらというのは語弊がありますが、楽しむことができた時代から、現在は、家庭にそのような道具はなかなかない。つまり、触ったこともない、見たこともない、どう使うのかということも含めてわからない時代になってきましたので、私は教えやすさというものがどの教科書が一番なのかなと思ひました。そうすると、授業によって組み立てやすいような見開き構成になっており、2ページ完結型という形を取り、育成すべき

力、能力、資質がどんなものかを明確にしてある教科書がやっぱり一番良いかなと思  
いました。そうすると、東京書籍の教科書が一番優れているかなと考えまして、東京  
書籍を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) では、齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私も東京書籍を選ばせていただきました。お二方のお話を補足する形  
になりますが、まず、東京書籍の教科書は写真が多くて見やすく、子供たちが見やす  
い教科書だなということと、ほかの教科書によっては、別冊になって分かれており、  
そのほうが使いやすいのではないか、どうなのだろうという、私も少し疑問だったの  
ですが、一体化していると逆に使いやすいのではないかと思いましたので、東京書籍  
がそういうのに特化されているということ、また、今までもこの東京書籍で技術をお  
勉強されてきて、現場の先生方も使いやすかったという評価が高かったので、東京書  
籍を選びました。

(五十嵐教育長) 岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も東京書籍を選びました。理由は、ほかの委員の皆様と同じでござ  
います。

(五十嵐教育長) 「技術」については、私も東京書籍を選ばせていただきました。

それでは、皆さん、東京書籍ということですので、「技術」につきましては、東京  
書籍に決定してよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「技術」については、東京書籍に決定をいたします。

次に、「家庭科」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。

(佐藤委員) 技術と同じように、教科書の構成の中に実習例や、資料がふんだんに  
取り込まれているほうが確かめやすいのではないかと思いました。家庭に関する知識  
や、技能ではなく技術を確かめやすいのではないか、また、それが実際に実生活で活

用でき、応用できるようになるように、覚えやすいということも必要なのではないかと
と思いました。ウェブサイトの利用がしやすいということも、特に、実際に動画で見
て覚える部分がある内容が多い科目でございますので、充実していることも必要だろ
うと思ひまして、家庭に関しては、私は東京書籍を選ばせていただきました。
(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員お願いします。
(植木委員) 先ほどから何度もお話ししていますが、どの教科書も、なかなか採択
するに当たっては、甲乙つけ難くて大変悩んだところであります。どの教科書が一番
良いのかというと、最後にたどり着くのが、子供たちにとってどう学びやすいのか、
教える側、教師にとってどう教えやすいのかというところに、戻って考えたときに、
やはり調理実習例が多いだとか、資料が豊富だとか、扱いやすいだとか、そういうと
ころに着目をして、私も東京書籍を選ばせていただきました。
(五十嵐教育長) ありがとうございます。では、齋藤委員お願いします。
(齋藤委員) 私も東京書籍を選ばせていただきました。どうしても、技術や家庭科、
美術もそうですけれども、授業数が大変少ない教科ではありますが、少ないからとい
っておろそかにして良い教科ではなく、当たり前のことですが、しっかりと子供たち
に身につけてほしいことがたくさんあると思います。その中で、限られた授業数の中
でも、とてもバランスの取れた教科書という評価がありまして、その少ない、限られ
た授業の時間数でもきちんとこなせるように作られている教科書かという点をお伺い
したことが、この教科書を選ぶポイントの一つで、また、技術と家庭科は、評価が一
緒だというように考えまして、評価が一緒だということは同じ教科書のほうが使いや
すいのではないかとと思ひまして、東京書籍を選ばせていただきました。
(五十嵐教育長) 岡田委員お願いします。
(岡田委員) 私も東京書籍を選びました。家庭での勉強とのつながりですが、学校
で学んだことをどう家庭で親とのコミュニケーションに反映していくか、学校で学ん
だことを家庭でも実践するということもありますので、そういうところで東京書籍
を選びました。

(五十嵐教育長) 家庭については、私も東京書籍を選ばせていただきました。
それでは、皆さん、東京書籍ということですので、「家庭」につきましては、東京書籍に決定してよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、「家庭」については、東京書籍に決定をいたします。
次に、「英語」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。
(佐藤委員) 英語についてですが、いろいろ言われておりますように、英語の能力をどのように伸ばすか、英語に興味を持って積極的に英語を使える、また、そういう使い方を学ぶことを求める。これが今、英語を身につける時代になるかどうかということで、様々なご意見もありますし、工夫もされていることだと思います。1年生から2年生に段階的に上がっていくということを見て、方法を教えるのか、それとも小学校から中学校の連続の中で、英語に興味を失わないようにてきぱきと指導していくのかということも、また十分考えていかなければいけないと両方できると良いのですが、なかなか難しいことをございます。専門性のある先生方は、進級するに従って覚えさせなければいけないこと、教えなければいけないことが増えてきて大変だと思っておりますが、その先生方の工夫ですとか、それから、教科書の使い方によっても随分変わると思います。委員会の報告などを受けまして、苫小牧の生徒がどのように英語に興味を持ち、また自分が臆することなく英語を使いたくなるのかということを考えて、今回、私は開隆堂出版を選ばせていただきました。
(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員、お願いします。
(植木委員) 私も結論から言うと開隆堂出版を選ばせていただきました。その大きな理由は、單元ごとに簡単な受け答えで解答ができる。そういうページ構成になっていることが大きな決め手の一つでした。また、私が考えるには、やはりこれからは英語を学びつつ、英語で思考する、そういうところが非常に重要な主体的な深い学びに

つながる。狙いは英語を聞いて英語で考える、そういうところが大変大事なところだなと思いました。それで、基本的な簡単な文型をまず学習し、それから、だんだん深いところに入っていくというような形を取っているのが開隆堂出版ではないのかなと思いましたので、私は開隆堂出版を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 私にとって数学と並んで英語の教科書も本当に迷う、一番迷いの大きい教科の一つでありまして、学習会が終わった後も自分なりにいろいろ考えたり、悩んだりしました。というのも、国際化といえば言葉にしてしまえば簡単ですけども、私たちの子供の生きる時代というのは、今よりもどんどん社会が変わっていきまして、どんな職業に就いても様々な国の人と一緒に手を携えて、一緒に仕事をし、一緒に生活をしていく時代になっていくと思います。その中で、小学校で英語が教科化され、今、小学校では子供がとても楽しくお勉強をして、中学校に進んでいくわけですから、中学校に行ったときに、英語に対して、また大きな抵抗を持ってしまわずに、せっかく小学校で培ったことを、より次の学びにステップアップしてつなげていく教科書は何かないかというところを考えました。その中で、本当に迷ったのですが、私も開隆堂出版を最終的に選ばせていただきました。やはり英語を嫌いにならないでほしい、語学は文化ですので、語学を通して英語圏の文化、表現を学んでほしい。その中で、まず開隆堂出版の特徴として、2個までキーセンテンスを教えてくれる。それが子供たちにとって、少し学びのハードルを下げ、より抵抗なく英語を身につけることができるのではないかなと。そして、現場の先生の一定の評価があり、今まで、この開隆堂出版の教科書を使い学びやすく、また教えやすく、子供たちにとっても良い教科書ではないかという評価の声も聞きましたので、開隆堂出版を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も開隆堂出版を選びました。理由は、学びやすさと、QRコードとつながりも良いのではないかと思いますので、そのような理由から、開隆堂出版を選びました。

<p>(五十嵐教育長) 英語については、私も開隆堂出版を選びました。皆さん言われていることに付け加えるとすれば、小学校の学習の繰り返し、そして、中学の学習にかなげるという構成、その後、トライというコーナーで小学校の知識に触れながら、知識の定着を確認できるように工夫しているといった点を評価して、開隆堂出版を選ばせていただきました。</p>
<p>それでは、皆さん、開隆堂出版ということですので、「英語」につきましては、開隆堂出版に決定してよろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) それでは、「英語」については、開隆堂出版に決定をいたします。</p>
<p>次に、「道徳」の審議に入ります。佐藤委員からお願いいたします。</p>
<p>(佐藤委員) 特別教科、道徳についてですが、多角的な問題、多様性が求められている現代において、姿が変わった形で問題が提起されることがあるのですが、道徳で中学生が何をするのかというと、まず、物語の中の主人公と出会うということ、それから、友達の意見を知る、それから自分自身はどうかというところで、段階的に、または3つの視点でいろいろなことを考える機会になるということが望ましいのではないかなと思いました。その中で、様々な意見を聞く力というのが大事なので、自分はどうだろうかという自分の心との会話というのも必要なことなのではないかと思いました。主人公と自分を重ねるといった読み方、または感じ方というものも大事で、それがつながっていくだろうと思ひ、この教科書の中に取り組みされているかということを見たいまして、今回は、光村図書出版を選ばせていただきました。</p>
<p>(五十嵐教育長) ありがとうございます。植木委員お願いします。</p>
<p>(植木委員) 中学校については、2年間の移行期で、そういう準備をしているという段階での教科書採択ですので、今般の新しい新学習指導要領で、やはり道徳の教科化というのは非常に大きな柱です。道徳を通して、子供たちにどんな心をつくるのか</p>

<p>というあたりですが、一つは、道徳性をどう養っていくのかということだと思います。</p>
<p>道徳性というのは何かといえば、自分の心を深く見つめるということと、実際にいろ</p>
<p>いろな場面でどんな行動をするのかという、道徳的な実践力と、道徳的な実践の態度</p>
<p>とあって、この2つをもって道徳性を養うということなのです。それでは、道徳が教</p>
<p>科になって、何を子供たちに考えさせたいかという、一つは、滋賀県大津市のいじ</p>
<p>めの問題がきっかけで、道徳の教科化というのが話題となり、実際に教科化につなが</p>
<p>ったわけですが、実際に多様な考えを認めるというところ、それから、異論を排除し</p>
<p>ない、人の痛みを知る。この辺りが大変重要なところなのかなと思います。そして、</p>
<p>もう一つ重要なのは、この教科で自己評価をさせない。つまり、今日の勉強がわかつ</p>
<p>たとか、わからないとか、これくらい考えが及んだとかということを考えさせるよう</p>
<p>な教科書であってはならない。そういう意味で、私は何社かの教科書に、いまだに自</p>
<p>己評価をさせようというところがありました。私は、採択からはそのような教科書</p>
<p>会社は除きました。光村図書出版の教科書は、本市の小学校の国語でこの光村図書出</p>
<p>版の教科書を使いながら、文章、内容、項目、本文が短く、簡単そうに見えますが、</p>
<p>中学生は、なかなか自分の心の内を話さないという現実がありますので、むしろ簡単</p>
<p>な文章を通して、主人公の考えに迫るといようなスタイルを取る上で、私は光村図</p>
<p>書出版がふさわしいかなと考えています。</p>
<p>(五十嵐教育長) ありがとうございます。齋藤委員お願いします。</p>
<p>(齋藤委員) 私も光村図書を選ばせていただきました。中学生の年代というのは、</p>
<p>本当に心揺れ動く時期で、まず自分に対してたくさん不安がある年代だと思います。</p>
<p>自分は何者なのかということ、自分がほかの子たちから認められているかという不安</p>
<p>感と、多種様々な価値観とどう関わって良いだろうかという、たくさんの不安を、外</p>
<p>には見せませんが、揺れ動く年齢でそれが表れているのが、何とか友達とつながろう</p>
<p>と、SNSで私たち大人の見えないところで何とかつながろうと、痛々しく感じるほ</p>
<p>ど、子供たちは何とか自分が認められたい、他者とどう関わっていったら良いのかと、</p>
<p>不安で仕方がない年代なのかなと思います。そういう年代の子たちに道徳の教科が意味</p>



するものというのは、とても重要で重い教科だという認識の中で、教科書選びをさせていただきました。その中で、まず内容はどの会社も甲乙つけ難いものですが、やはり、国語の教科書で光村図書を使っているということもありまして、子供たちが、国語の教科とは違いますが、文章を読むということで抵抗なく読みやすいのかなということと、題材に対して、どう深く考えていくかということ、取り組みやすいのではないかなということと、また、巻末に学びの記録を書けるようになっていまして、決して評価ではなく、自分の心情の変化をそこに記入をし、自分の考えがどういうふうに変わってきたかという振り返り、自分を見つめ直すことができやすいのかなと思ひまして、光村図書を選ばせていただきました。

(五十嵐教育長) 岡田委員お願いします。

(岡田委員) 私も光村図書を選びました。幸福というのは、それぞれ多様なもので、どれが幸福かというものはそれぞれが持っており、いろいろな幸福の多様性というか、それぞれが異なった存在で、それをお互いに守っていこうというような、そういう多面性、多角的に考えるということが表れていると思いますので、光村図書を私は選びました。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。道徳については、私も光村図書を選ばせていただきました。

それでは、皆さん、光村図書出版ということですので、「道徳」につきましては、光村図書出版に決定してよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、「道徳」は、光村図書出版に決定をいたします。続きまして、特別支援学級教科用図書について、事務局から説明をお願いいたします。

(学校教育課長) 続きまして、令和3年度特別支援学級教科用図書につきまして、ご説明を申し上げます。

<p>小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が、当該学年用の文部科学省検定済み教科書の使用が適当でない場合に教科書として使用するものでありまして、文部科学省検定済み教科用図書の学年用、文部科学省著作教科用図書及び一般図書がございます。一般図書につきましては、ご意見をお伺いする中で、全てを採択してよろしいか、ご審議をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>(五十嵐教育長) ただいまの説明についてご質問等はございますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) それでは、ないようでありますので、特別支援学級用教科用図書については、一般図書を含めて全て採択をするということによろしいですか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) それでは、原案どおり決定をいたします。</p>
<p>次に、小学校用教科用図書について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>(学校教育課長) 続きまして、令和3年度に使用する小学校用教科用図書についてご説明いたしますが、文部科学省通達の内容を踏まえまして、現在使用しております教科用図書で、引き続き採択してよろしいかと考えておりますので、ご審議よろしくお願いたします。</p>
<p>(五十嵐教育長) ただいまの説明についてご質問等ございますでしょうか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) それでは、説明があったとおり、小学校用教科用図書について、現在使用している図書を引き続き採択するということによろしいですか。</p>

(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、原案のとおり決定をいたします。
最後に、事務局から連絡事項等がありましたら、お願いをいたします。
(学校教育課長) ここまでのご審議の結果、令和3年度から使用する教科書について、改めてご確認をさせていただきたいと思います。
まず、小学校の教科用図書につきましては、現在使用している各出版社のものを採択し、次年度、1年間引き続き使用することといたします。
次に、中学校の教科用図書につきまして確認をさせていただきますが、まず、国語は光村図書出版株式会社、書写は光村図書出版株式会社、地理は教育出版株式会社、歴史は教育出版株式会社、公民は東京書籍株式会社、地図は株式会社帝国書院、数学は東京書籍株式会社、理科は東京書籍株式会社、音楽一般は教育出版株式会社、音楽器楽は教育出版株式会社、美術は開隆堂出版株式会社、保健体育は株式会社大修館書店、技術は東京書籍株式会社、家庭科は東京書籍株式会社、英語は開隆堂出版株式会社、道徳は光村図書出版株式会社、以上のとおり採択と確定しました。
特別支援学級用の教科用図書につきましては、全て採択ということになります。
採択した教科書、採択理由等につきましては、後日、ホームページで公表いたします。また、決定いたしました教科書につきましては、教育・福祉センターの4階、教科書センター及び中央図書館2階で閲覧可能となるようにいたします。事務局からは以上でございます。
(五十嵐教育長) それでは、以上で議案第1号の審議を終了いたします。
第2号 令和2年度教育費補正予算について

(教育部次長) -令和2年度教育費補正予算について説明-
(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
(一同「なし」の声)
(五十嵐教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、議案第2号は原案どおり決定いたしました。
第3号 教職員の事故に関する処分について
第4号 令和2年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞の選考について
第5号 教育委員会職員の処分について
(五十嵐教育長) 議案第3号、議案第4号及び議案第5号につきましては人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、会議の日程の最後に審議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、議案3号、議案第4号及び議案第5号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うことに決定いたします。

6 報告・協議
報告（１）令和２年度 教育委員会点検・評価報告書について
（教育部次長） -令和２年度 教育委員会点検・評価報告書について説明-
（五十嵐教育長） 質疑に付します。何かございませんか。
（植木委員） 大変、苦勞されて作られたと思うのですが、最初のページの教育委員会の活動状況の「合議制・公正公平性・継続安定性について」ですが、教育委員会の考え方が二つ記載されています。いつも思っていたのですが、もう少し具体的に記入できればと良いなと思います。例えば、調査研究委員会の報告や学習会が何月何日に何回開かれたとか、具体的なものを記載しないと、いつまでも公平公正さとは何かと言われてしまうと思います。そのあたりを記載して良いのであれば、このような流れであるということを学識経験者の方に理解していただくことが大事ではないかなと思いますし、具体的に記載すれば受け止める側もこのように行っていることがわかると思います。文章だけでは公平公正さがわかりにくいと思いますので、可能であれば改善した方が良いのではないかなと思いました。また、「年１回の総合教育会議で、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図ることができるのか」とありますが、これも、わからなくもないのですが、総合教育会議の意味や教育委員会の役割を十分承知したうえで、意見しているのであれば良いのですが、単に１回しか行っておらず総合教育会議は何をやっているのかというような意見ではないのかなと思いました。過去の教育委員会から新しい教育委員会の制度に移行した理由は、市長の考え方も学校教育に反映するとのことですので、その趣旨を学識経験者の方に伝えないと、いつまで経ってもと言われてしまうのではないかなと思います。それから、「教育委員の活動状況が良く見えない」という意見ですが、これはいつも不満に思っていることの一つです。教育委員会の活動、全てが教育委員の考え方が反映されて動いていると私は思ってい

ます。個々の教育委員がどのようなことを発言したとか、どんな活動したとかは大事では無いとは言いませんが、枝葉末節のことで、教育委員会活動の全てを教育委員会の中で教育委員が議論して活動していることを、伝えて欲しいなと思います。また、その他で、「ICT化については以前に議論してきた案件ではあるが、コロナ禍にあって子供が、学校が、教師が健全に生きる場所を一人ひとり見つめる目と、世界的な教育を考える広い視野で議事を進めていただきたいです。」という意見ですが、正直、何を言いたいのかよくわかりません。ITをたくさん使って教育を行って欲しいと言いたいのか、そういう危機が本市では足りないと言っているのか、そのあたりがよくわからないなと思いました。それから、3ページ目の不登校問題です。「不登校の問題は複雑で容易に解決は困難ですが」と学識経験者の方にも、理解していただいていると思うのですが、「教育委員会の存在価値が問われている」というのは、不登校問題が解決すれば、教育委員会は全て良いのかというような、少し言いすぎかなと感じました。この評価をするときに、私もC評価とした理由についてお聞きしたと思うのですが、組織の改革をして、どのように改善して早期発見と早期対応にあたっているのかだとか、あるいは学校の課題を教育委員会が受け止めてどう対応しているかをもう少し具体的な事を記入すると、ご意見いただいた学識経験者の方にもう少しわかるのではないかと思います。ここも可能であれば、具体的なことの記載があれば良いなと思いますが後ろの方に、文書も改善されて記入もされているのでこれで良いとも思いますが、このあたりが気になりましたので、質問させていただきました。もう一点、外国語教育の充実についての「形骸化した現行制度の下で」とありますが、教育委員会制度が形骸化していると言いたいのか、外国語教育が形骸化していると言いたいのか、少しわかりませんが「現状6名のALTの増員を図ってもあまり効果は見込めないと思います」というのは、何を言って言っているのか私にはわかりません。私は、ALTを教育委員会が取り入れて活動してきたことは、とても苦小牧市の子供たちには有効であったと感じています。また、今年はまだ実現しておりませんが14名に増員する予算もついておりこれは、苦小牧市として誇って良いことだと思います。

「グローバル化にいかに対応するか、大きなビジョンを描く必要がある」とありますが、ビジョンを描いており、このあたりも学識経験者の方にお話しするときに、経過や現状を話していただき、教育委員会は形骸化していないということをお伝えいただければと思います。以上です。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。今の意見についていかがですか。

(教育部次長) ありがとうございます。ご指摘いただいたとおりで、今回、学識経験者の方で初めて評価に加わった方がおりますので、我々が継続してきた取組の内容や教育委員の活動内容について、今回の点検評価の内容だけでご意見をいただいているということで、我々もその真意を少しわかりかねるところも実際にございます。ただ、この点検評価は一般の方を含めてご覧になるものですし、どのようにわかりやすく伝えるかという視点が大事だと思いますので、学識経験者の方からいただいた指摘、疑問というのは、やはりこちらとして説明が不足していたりもう少しアピールしたりする事が不足している部分だと捉えております。そういった意味で今回、教育委員会の考え方を示させていただき、植木委員にご指摘いただいた点につきましても、もう少し具体的に記載できる部分があるかどうか検討させていただきたいと思います。例えば、総合教育会議の件や教育委員の活動状況について、もっと詳しく見てもらえればわかると思うのですが、今回、より詳しく記載しており、総合教育会議はこういう事をしているというのを記載したのも初めてでしたので、そういった意味で反応していただいたこと自体は、こちらからの発信がうまくいったのかなと捉えています。新しい学識経験者の方がどういった意図で指摘しているかというところまでは、確認できていないですけども、全体を通してこちらの発信をよりわかりやすくというところだと思いますので、検討させていただきたいと思います。

(植木委員) ありがとうございます。

(五十嵐教育長) これは、学識経験者の方から出てきた意見をすべて記載し、全て回答しているのか、もっとほかにも意見があったけれども、少し認識がずれているものは口頭で説明し、記載していないというこのなのか、どうなのでしょう。

(教育部次長) 一件、質問の意図が誤っており、こちらに載せるものではないと判断したものがありませんが、その他は全て載せております。
(五十嵐教育長) わかりました。再度、検討いただければと思います。
ほかに、ご意見ございますか。
(齋藤委員) 以前、お話したことについて、私の質問に合った形で修正されており、大変良いと思います。ありがとうございました。
(五十嵐教育長) ほかにないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました議案第3号、議案第4号及び議案第5号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。
(五十嵐教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、議案第3号、議案第4号及び議案第5号につきましては原案どおり決定しましたことを申し添えます。
7 その他
(五十嵐教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。
(一同「なし」の声)



8 委員会閉会の宣言（五十嵐教育長）・・・12時20分